

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812610		
法人名	有限会社 グループホームさんぼみち		
事業所名	グループホームさんぼみち中仙		
所在地	秋田県大仙市長野字太田袋1-1		
自己評価作成日	平成24年1月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市東通三丁目9-31		
訪問調査日	平成24年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の造りは広く設計されており、廊下は雨天時散歩の代替として歩行訓練やグランドゴルフなどに活用されている。ホールも広く、レクリエーションに有効に活用している。又、利用者さんがなじみやすいような居室、外には利用者さんと一緒に作業が出来るように花壇や菜園があり、又、散歩コースは周囲が自然いっぱい、四季折々の花や景色が堪能できるようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは建物の2階にあり、利用者は1階の有料老人ホーム利用者と毎日合同で行われるレクリエーションに参加しています。近くの桜並木やホーム周辺が散歩コースになっており、地域の方々と交流できる良い機会となっている他、日々の階段の昇降も利用者の機能維持に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分で出来ることは自分でという基本理念を始め、共同生活の中でお互いに支えあう精神を共有しながら体力の向上を図っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念が事業所入り口に掲示されていますが、話し合う機会がなく、意識付けされていません。	職員全員で話し合いの場を設けて事業所の理念を理解し、サービスの質の向上に繋げていかれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩コースを近隣の家の前を通るようにしている。町内会に加盟し、交流できる機会を求めて情報を得ている。	近隣の方にホーム前の土地を提供していただいていた使用しており、周辺を散歩の際には地域の方々と挨拶を交わし、利用者が地域と関わりが持てるよう取り組まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	施設の行事などに参加して頂くよう地域の方々に通知し、又、地元の中学生の訓練実習にも毎年訪問して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回議案を提示し、話し合うようにしている。会議で出た意見は、各職員に報告、意見を求め、申し送りや連絡ノートを通じて実施していく。	会議は定期的開催されて、ホームの取り組み状況を報告し、参加者からの意見に対応しています。	会議後の今後の課題や改善事項について職員全員で話し合い、運営に反映できるよう具体的に取り組んでいられることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	依頼のある各種の調査には応じている、又、市職員からの意見を取り入れ改善に努めている。	運営推進会議を通じて利用者の状況を把握していただいている他、福祉事務所等行政各関係者と連携し、利用者の支援に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを基に具体的な禁止行為について研修し、身体拘束のないケアを実践している。入浴時や一人対応時等やむを得ない場合は、家族の了解・同意のもと、一時的に行っていることを伝えるようにしている。	拘束のないようサービス提供中にお互いに注意し合い、毎日の申し送りで情報を共有しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事例を基に、全職員が研修を通じて虐待防止について学び、周囲で虐待が見過ごされていないか注意しながら、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今、現在、数名の方が権利擁護の支援を受けており、支援員の訪問の際会話の中で制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書を読み上げて内容を説明し、疑問や不安を解消するよう努めている。契約締結時には理解と納得の上で実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族の参加が少ないが、利用者さんを交えて要望を聞き、運営に反映している。又、家族が来所した際に、ケース記録を見て頂き意見を頂くよう心がけている。	個々の事情で面会は少ないものの、電話等機会がある時に意見を聞けるようにし、運営に反映できるように取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングを通じて意見交換を行う体制を作り、運営に反映するよう努めている。	サービスの向上に繋がるよう、会議以外でも意見を出し合い、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力を引き出しながら楽しく働けるような環境づくりに考慮し、給与水準や労働時間について職員の理解を得て決定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を多くし、又、職員一人ひとりの力量を考えたシフトの作成を行い、指導の上でレベルの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流については、現在なかなか実現できないが、今後検討していくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人の情報を得ることで話題をつなげながら、管理者、ケアマネ、スタッフが本人を交えて気軽に話し合うことができるように機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者さんの解決すべき課題と、ご家族が抱えている悩みや不満は共通なことが多い為、的確なサービス計画を提示することにより、信頼を得る事につながり、関係をより築くことができる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に何ができるか？好みや楽しみ、希望等を聞き出し、本人の意向を受け入れる事で関係を築いている。又、家族としての厳しさも必要であることも学ぼうとしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設のイベントやぎょうじなどに参加して頂く事で、利用者さんと楽しいひと時を過ごして頂けるように協力を求めている。又、面会時やお手紙等で生活の状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方や友人の方々が面会に来られた場合は、会話の場所や周囲の雰囲気配慮し、会話が楽しくできるような支援を行っている。	家族が理容ボランティアとして毎週来訪している他、本好きな利用者のために、一緒に公民館に本を借りに出向く等、一人ひとりの希望や習慣に沿った支援が継続できるよう取り組まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩の際に車椅子の利用者さんと一緒に楽しんで頂けるよう、声かけを行いながら車椅子を押して頂いている。又、レクリエーションにて共同作業を行うことにより、お互いの気持ちを理解しながら、自発的に作業に取り組んで頂けるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な情報の提供についてや相談は、継続している。又、ご家族との情報を共有し、支援に努めている。他の事業所との交流も継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月毎のケアプランの見直しとモニタリングを行い、その際に帰宅願望の利用者さんに対しては、意向の聞き取りを行いながら家族との連携を図っている。	日々の生活状況や表情から希望を汲み取り、安心した生活が送れるよう検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初のアセスメントで今までの生活状況について把握はしているが、更に本人との会話の中で新たな情報を得ようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、加齢による変化や病状の変化に対応した現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行っているが、家族の参加が少ない為、電話などでも意見を聞く機会を設けて、計画書に反映している。	ケース記録を基に、モニタリング、カンファレンスが行われ、本人の意向に沿った計画となるよう話し合われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日中及び夜間の状態を記録している。一人ひとりに対して職員間で情報を共有しながら見直しを行い、具体化する必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駐在所・消防署等の緊急施設、かかりつけ医・嘱託医等の医療機関、学校等の教育機関、ボランティア等の支援機関に協力を得て安全な生活ができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の体調の変化に応じた受診の支援体制を整えて対応している。又、ご家族の希望等において連携を行っている。服薬についてはかかりつけ医、薬局との連携を強化している。	ホームの協力医がかかりつけ医となっており、随時電話で相談に対応していただき、利用者の健康管理がされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接した施設の看護師及び短期入所生活介護施設の看護師より助言を頂いている。又、かかりつけの病院の看護師にも電話による助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連携をとり、治療及び状態の回復を見守っている。入院した場合は早期に退院できるよう協力を努めている。利用者さんの不安を取り除くような援助を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在対象者はいないが、過去の事例をもとに、近い将来、ターミナルケアが必要であることを予測し、マニュアル作りの作成を検討している。	現体制で終末期に対応できないことを契約時に話をされており、利用者にとって最良の方法で対応できるように検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成されているが、実際には訓練を行ったことはない為、マニュアルに添った実施訓練を行なっていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行ない、方法や手順について助言を頂き、再確認し、全職員が周知できるようにしている。今後はグループホームとしての想定訓練を実施したい。地域の協力体制と応援要請については理解と了承を得ている。	別棟及び1階の有料老人ホームと合同で、夜間想定訓練も実施されています。	ホームが2階にあることを考慮して利用者及び職員が安全に避難できるよう、更に、訓練後の消防署の講評を活かし、具体的に取り組んでいかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴時のプライバシー保護は勿論、職員の利用者さんに対する行動が、利用者さんのストレスにならないよう留意している。言葉遣いについても自尊心を傷つけないような対応をしている。	利用者のこれまでの生活や思いに配慮し、声かけに注意しながら対応されています。	ホールの暖房を利用して居室を暖めているため、居室の出入り口を常時開放している状況であり、プライバシーの確保に工夫し、利用者の目線で対応されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの買い物に同行して頂いた際に食べたいものなどを聞き、取り入れる工夫を行なっている。又、行きたい場所等についても尋ね、本人の希望になるべく添うことができるように支援を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの昔ながらの生活スタイルを尊重し、道具や材料などを取り揃えた上で、個々の状況に応じた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	朝洗顔後は必ず紙を梳かして身だしなみを整えている。又、随時爪きり等行い清潔保持に努めている。洋服はタンスにしまっていることが多いが、外出の際は着用するように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁などの危険な道具についてはスタッフが担当し、盛り付けやテーブル拭きなど利用者さん自身がおいしく食事をすることができるよう支援を行なっている。	食前の口腔体操を日課として行い、畑で収穫した野菜や散歩の際に摘んだ山菜を食材にして、食欲増進に繋がるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんの体調や体重の増減に合わせて量を加減し、提供を行なっている。水分をあまり摂取しない利用者さんには声かけを行い水分を摂るように勧めている。又、メニューは栄養や種類などバランスを考えて作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行い、自分で磨くことやうがいを行なって頂くことを声かけにて支援している。又、洗浄剤等を用いて義歯洗浄の効果を高める工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間によるトイレ誘導を行い、夜間もなるべくトイレ又はポータブルトイレを使用するように支援を行なっている。すぐに立ち上がってしまう利用者さんには、できるだけ排泄するように声がけを行なっている。	チェック表で排泄パターンを把握し、誘導を適切に行ってトイレでの排泄を支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニュー作りで繊維の多いような物を取り入れたり、日々散歩をすることを心がけて実践している。又、薬のコントロールに心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行い、体調の変化の把握に努めている。利用者さんの希望は今のところないが、最低でも定期入浴を行なっている。	入浴が利用者の楽しみになっており、週2回入浴できるように支援されています。入浴できない時は清拭で対応されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は布団干しを行い、散歩を日課としているため、全員快眠している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人が薬を服用する際に、利用者さんに分かりやすいように説明を行なっている。又、誤嚥や飲み忘れを防止する為にスタッフが必ず介助を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の後片付け、食器拭き、洗濯物たたみ等、個々の意欲に応じた役割を提供している。又、他の事業所へ出向き、レクリエーションを行なうことで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	天候の状態、本人の体調や希望に添って、各種お祭りやドライブ、地域の行事等に外出できるような支援に努めている。	全員で出かけることは少ないものの、畑や花の手入れ、食材の買物と一緒に出かける等、できることを考えて戸外に出られるよう支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活保護の利用者さんについては、管理・代替で行い、後日請求としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実情は家族の拒否が多いため、電話の取り次ぎ、手紙や葉書の投函までは支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて室内温度を22～25℃の範囲内で調整している。利用者さんとの共同制作として貼り絵を展示している。	共用スペースは明るく、広い造りで、利用者が安全に移動できるよう配慮されています。ほとんどの利用者が日中の多くをホールで過ごしており、冬季は広さに応じた暖かさ調整されることを期待します。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	利用者さんがお互いに気持ちよく食事をしたり、雑談ができるように席を設けている。又、ソファや椅子等を設置し、寛ぎの空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れている物を設置する場所が確保されている。本人の生活感を見出すためにも搬入を勧奨している。	居室の窓から遠く山々や田園風景が望め、四季の移り変わりを感じとることができます。畳を使用する等、利用者の好みに応じた居室づくりをされています。利用者が居心地よく過ごせるよう、暖房設備の検討をされることを期待します。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掲示物等については利用者さんにもわかりやすいように文字を大きくする等の工夫を施している。又、利用者さんが安心且つ安全に歩行や移動ができるように廊下にはなるべく物を置かないようにしている。		